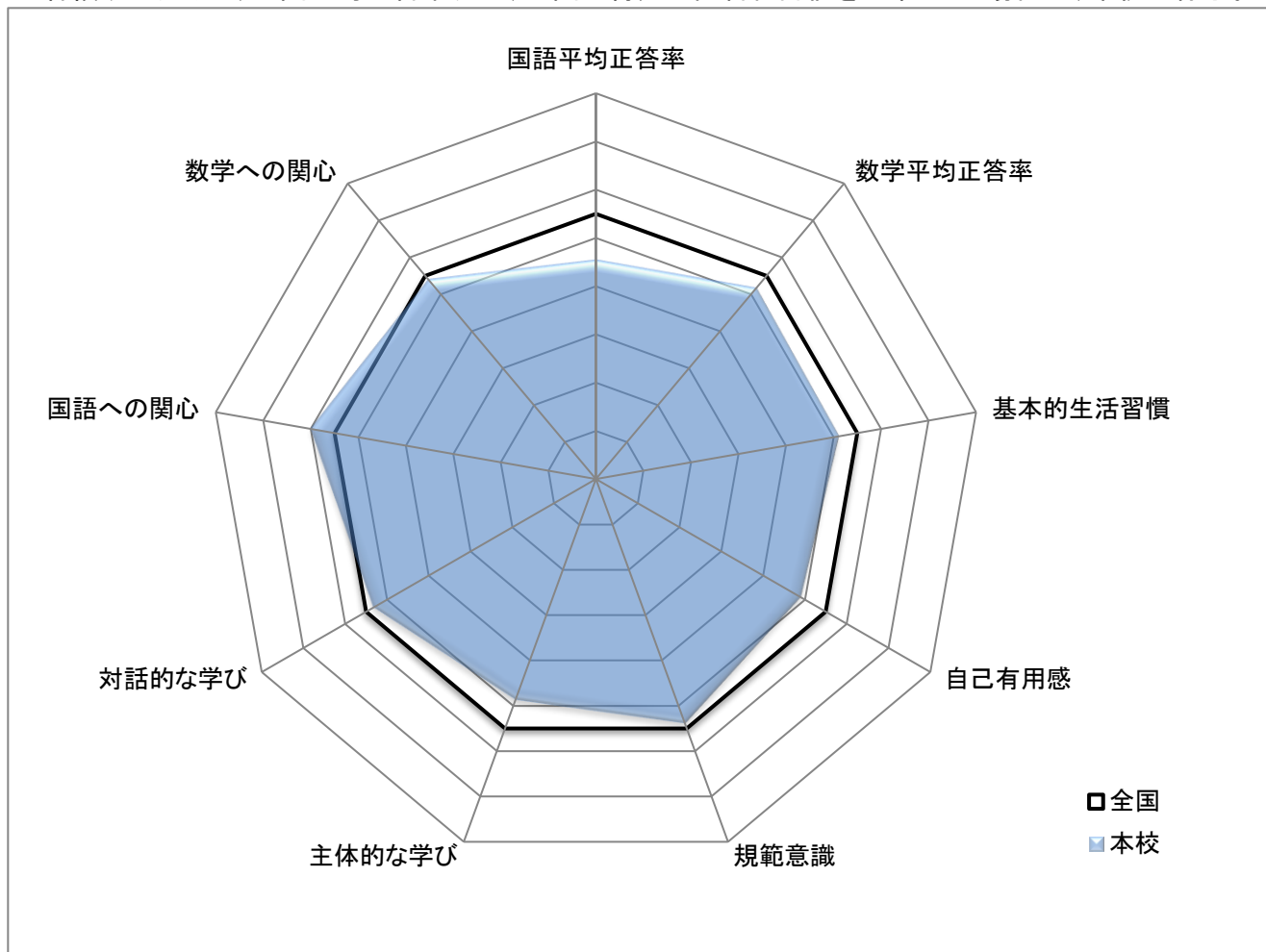


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

自ら計画を立てて主体的に学習に取り組める生徒が少ない。また、定期考査前は提出物をこなし終わっている生徒がほとんどである。しっかり計画を立て、見通しをもって学習に取り組む必要がある。授業中、説明を受けたばかりの時は答えられるが、次の授業では答えられないことも多い。家庭学習の習慣と学習内容の積み重ねが難しく、確かな学力へとつながっていない。

《授業改善のポイント》

授業者が一方的に説明する講義型の授業にのみに偏らないよう、考えたいくなるような学習課題の設定を工夫し、生徒の意見を取り入れ、主体的・対話的な授業につながる実践を推進し、学習に対する関心へつなげていく。また、小さな目標を設定し、「できた!」「わかった!」と実感させることで、自己有用感を高めていける授業を組み立てる。このような取組を重ね、学びと喜びとのつながりから、主体的に学ぶ姿勢を身につけさせていく。
 岩五リズム（生活リズム、学習リズム、運動リズム）を浸透させ、授業力改善のポイントとする。

《チャートの特徴》

教科への関心、規範意識が平均を上回っているのに対し、正答率は平均を下回っている。この要因は「主体的な学び」「自己有用感」の値が低いことと関連があると考えられる。ただ学習に向かうだけでなく、目標を意識し、達成に向け自ら試行錯誤をし、小さな達成感を味あわせる経験を通して学ぶ意義や楽しさが実感できるよう、「岩五リズム」の中の『学習リズム』にある自分に合った学習方法の確立に向けた授業改善・環境設計を行い、意識づけをしていく。

《家庭・地域への働きかけ》

授業中はまじめに耳を傾ける一方で、提出物への取組や家庭での学習時間の確保等、自己管理・自己調整に課題がある生徒が多い。よりよい生活・学習・運動習慣の立て方について学ぶ機会を設けるとともに、保護者の方々にもご協力いただけるよう、学年だよりや保護者会等で学習状況や取り組む姿勢等を発信していく。